

<b>学校教育目標</b> 校訓「自律・勤勉・友愛」の精神のもと、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成	<b>◆記入にあたっての留意事項</b> ○ 取組については、各学校の重点目標達成のための方策に応じて設定すること。 ○ 「取組」「評価項目」「評価項目についての重点的取組」を設定する際には、次の6点をいずれかに必ず位置づけること。 ①学力向上に関する取組 ②体力向上に関する取組 ③心の育ちに関する取組 ④いじめ問題解決に関する取組 ⑤特別支援教育推進に関する取組 ⑥あいさつ日本一に関する取組 ○ 小・中学校においては、①学力向上に関する取組、②体力向上に関する取組、③心の育ちに関する取組の部分の記述について、スクールプランと整合性を取ることを。 ○評価の例 A…目標を十分に達成できた B…目標をほぼ達成できた C…あと少しで目標が達成できた D…目標達成までいかなかった
<b>《本年度の重点目標》</b>	
<b>《重点目標1》</b> 確かな学力・体力の向上を目指した組織的・計画的な取組を推進する。	
<b>《重点目標2》</b> 心の育ちに関する取組や健康・安心・安全の取組を推進する。	
<b>《重点目標3》</b> 保護者や地域と連携し、開かれた学校づくりを推進する。	

取組	評価項目	評価項目についての重点的取組	評価	
関学 する 向 取 上 組 に	<b>【授業力向上①】</b> ◇<質問紙63>「授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか。」について、肯定的な回答 [90%以上] ◇<質問紙64>「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。」について、肯定的な回答 [80%以上]	<b>【授業力向上①】</b> ○教科担任が毎時間の授業において、①めあて②学習の流れ③まとめカードを活用し、生徒が視覚的に課題解決への見通しをもち、授業の最後に達成感をもつことができるようにする。 ○担当教師が「わかる授業づくり5つのポイント」を押さえた曾根中版授業力アップシートの活用と思考スキルカードを学習内容に応じて効果的に活用できるようにする。 ○定期考査問題に、基礎学力の定着と活用型の問題を必ず取り入れ、生徒の学習の定着を把握し、授業の改善を図る。	A	<b>【授業力向上①】</b> ○<質問紙63>「授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか。」について、肯定的な回答90%以上の目標を達成することができた。教員の意識が向上した。 ○<質問紙64>「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。」について、肯定的な回答80%以上を達成することができた。教師が「まとめ」と「振り返り」を行ったことで、生徒の意識を改善することに繋がった。 ○北九州学力状況調査の検証を通して、思考力を育む問題に対する改善の傾向が見られた。 ○書画カメラの全教室設置と活用、曾根中学校学びの心得の教室掲示等を通して、学習環境を整備できた。 ◆授業の最後に「まとめ」が行われていても、「振り返り」カードを使った明確な振り返りが行われていなかったことで、生徒の意識に差が生じていた。 ◆生徒が「振り返り」を意識できるように「まとめ」カードを使用して、視覚化を考慮した取組を具現化する。 ◆教員の指導力が更に向上し、個に応じた指導、思考スキルカードの効果的な活用と授業内容の改善が図れるように組織的・計画的な校内研修を実施する。
	<b>【授業力向上②】</b> ◇<質問紙59>「授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。」について、肯定的な回答 [90%以上] ◇<教員自己評価>「①主体的な学び」「②対話的な学び」「③深い学び」になっているかについて、5点中 ①4.0点以上②4.0点以上③4.0点以上	<b>【授業力向上②】</b> ○教科担任が教科の特性と単元内容に応じ、小グループで「自分の意見をもち、交流する活動」を適宜計画的に取り入れる。 ○教科指導と特別活動、総合的な学習の時間の関連を図り、一人一人の生徒が、自分の考えをもち、相手の意見を受け入れる雰囲気をつくり、課題の解決に向けて情報を集め、意見交換をして、発表したりする学習活動を取り入れ、教育活動が相乗効果となって現れるように取り組む。 ○管理職等が授業を見て助言したり、教員・生徒相互で授業を見合う機会を創出したりする。		<b>【授業力向上②】</b> ○<質問紙59>「授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。」について、目標とした90%以上をほぼ達成することができた。小グループでの話し合い活動を指導計画の中で効果的に位置付けるなど、教師の意識が向上した。次年度も教科指導だけでなく、特別活動や総合的な学習の時間等を関連させて効果的な話し合い活動ができるように取り組むたい。 ○各学年の授業研究とモデル授業の参観と協議会を通して、教師が自分の授業振り返ることで、授業の改善が見られた。 ◆教科指導だけでなく、特別活動や総合的な学習の時間等を関連させて効果的な話し合い活動ができるように、組織的・計画的な校内研修を実施する。 ◆学習指導案を簡略化するなど、業務改善を意図した取組を更に推進する。
	<b>【補充学習】</b> ◇<質問紙41>「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれますか。」について、肯定的な回答[80%以上]	<b>【補充学習】</b> ○個のつまずきに応じた学習の場として、学習環境を整え、試験前に放課後の質問教室を開設する。 ○授業時に個の学習支援活動にあたるため、教科に応じて少人数体制を整える。 ○定期考査対策の学習時間のために、試験日の1校時にチャレンジタイムを継続して設定する。 ○学力定着サポートシステムを継続活用する。		<b>【補充学習】</b> ○<質問紙41>「先生は…わかるまで教えてくれますか。」について肯定的な回答80%以上を目標とし、ほぼ達成することができた。必要に応じて職員室前の学習スペースや教室での補充学習に取り組む姿が多く見られた。 ◆生徒の問題解消に繋がっているが、全校での組織的な取組や受け入れ体制(職員室前の学習スペース意外)がとれるように、学習環境の整備を検討する。 ◆北九州市学力向上サポートシステムを更に活用する。 ◆生徒会主体の学力向上週間の設定など、生徒発の主体的な取組を推進する。
<b>【家庭学習】</b> ◇<質問紙14>「学校の授業時間以外に1日当たりの勉強時間」について、「1時間以上」と回答 [70%以上]	<b>【家庭学習】</b> ○曾根中独自の自主学習ノート(イチコレノート)の質の充実に向けて、優秀ノートの掲示や表彰などに取り組む。 ○「家庭学習の手引き」を作成し、勉強の仕方を学ぶ時間を設定し、効果的な学習活動に取り組む。	<b>【家庭学習】</b> ○<質問紙14>「学校の授業時間以外に1日当たりの勉強時間」について、「1時間以上」と回答 [70%以上]を目標に自主学習ノートに全校で統一して取り組み、優秀ノートの掲示や表彰等の啓発活動を行ったことで目標をほぼ到達することができた。 ◆イチコレノート(自学ノート)は習慣化した。自主的で計画性のある学習習慣の定着を図る。 ◆イチコレノート(自学ノート)の改善を図り、家庭学習の質を向上させる。		
関体 する 向 取 上 組 に	<b>【保健体育科授業力向上】</b> ◇<生徒自己評価>「めあての提示」について肯定的回答 [90%以上] ◇<生徒自己評価>「体の動かし方やコツ(運動のポイント)がわかった」について、肯定的な回答[80%以上] ◇<生徒自己評価>①「体育の授業が楽しい」②「運動が好き」について、肯定的な回答①95%、②90%以上	<b>【保健体育科授業力向上】</b> ○教科担任が毎時間の授業において、「めあて」と「学習の流れ」を適切に示すことで、生徒が課題解決への見通しをもち、達成感をもつことができるようにする。 ○保健体育科の学習における主体的・対話的で深い学びを実現した姿を明らかにし、その実現のための手だてを明確にした授業づくりを行う。 ○板書や資料提示の仕方を工夫し、運動のコツを明確にした授業を展開する。 ○グループ単位での学び合い学習を活性化させる。	B	<b>【保健体育科授業力向上】</b> ○「めあての提示」90%以上を目標に、わかりやすい資料の提示の仕方や視覚化の工夫で、100%の達成率であった。次年度も継続して取り組みたい。 ○体の動かし方やコツ(運動のポイント)がわかった」についても、小グループに分かれての「教え合い」などが効果を奏し、肯定的な回答80%以上の目標を達成することができた。 ○①「体育の授業が楽しい」②「運動が好き」について、肯定的な回答①95%②90%以上を目指し、目標値に近づけることができた。 ○授業研究と協議会を通して、主体的・対話的な学習方法が向上した。今後はさらに深い学びへと繋げていく。 ◆「めあて」や学習内容等、授業の質を上げる必要がある。また、ICT機器等の活用を推進することにより、運動が苦手な生徒にも対応する授業を展開する。 ◆今後も継続した取組により、自己評価が向上し、更に体力向上に繋がるように継続して取り組む。
	<b>【運動習慣】</b> ◇<生徒自己評価>「自分の運動量が豊富である」について、肯定的な回答 [85%以上] ◇<質問紙14>「家の人からのすすめ」について肯定的な回答 [60%以上] ◇<質問紙13>運動習慣の価値について肯定的な回答 [90%以上] ◇<質問紙5>体育授業以外で60分以上体を動かしている [80%以上]	<b>【運動習慣】</b> ○体力向上プログラムを活用し、準備運動や補強運動を行い、基礎体力を身につけさせる。自分の課題に応じた「体力向上セット運動」に年間を通して取り組む。 ○スポーツテストの種目別の上位生徒の氏名と記録や昨年度の記録などを、学年ごとに校内に掲示することによって、体力向上に向けて意欲の喚起を図る。 ○体力を高める運動をバランスよく取り入れた学習活動や体育的行事を設定する。 ○体力向上に関する通信を発行する。		<b>【運動習慣】</b> ○体力向上プログラムを活用した取組により、「自分の運動量が豊富である」について、目標値(85%以上)に近い肯定的な回答を得ることができた。今年度の課題を検証したプログラムを作成し、次年度も基礎体力の向上に努めたい。 ○<質問紙13>問紙14<質問紙5>については、生徒は意欲的に保健体育科の授業や放課後の部活動に取り組んでおり、成果が上っている。 ◆体づくり運動と保健学習との関連を図り、体力向上についての知識を身に付けさせ、行動につなげる必要がある。
	<b>【保健体育科授業力向上】</b> ◇<生徒自己評価>「めあての提示」について肯定的回答 [90%以上] ◇<生徒自己評価>「体の動かし方やコツ(運動のポイント)がわかった」について、肯定的な回答[80%以上] ◇<生徒自己評価>①「体育の授業が楽しい」②「運動が好き」について、肯定的な回答①95%、②90%以上	<b>【保健体育科授業力向上】</b> ○教科担任が毎時間の授業において、「めあて」と「学習の流れ」を適切に示すことで、生徒が課題解決への見通しをもち、達成感をもつことができるようにする。 ○保健体育科の学習における主体的・対話的で深い学びを実現した姿を明らかにし、その実現のための手だてを明確にした授業づくりを行う。 ○板書や資料提示の仕方を工夫し、運動のコツを明確にした授業を展開する。 ○グループ単位での学び合い学習を活性化させる。		<b>【保健体育科授業力向上】</b> ○「めあての提示」90%以上を目標に、わかりやすい資料の提示の仕方や視覚化の工夫で、100%の達成率であった。次年度も継続して取り組みたい。 ○体の動かし方やコツ(運動のポイント)がわかった」についても、小グループに分かれての「教え合い」などが効果を奏し、肯定的な回答80%以上の目標を達成することができた。 ○①「体育の授業が楽しい」②「運動が好き」について、肯定的な回答①95%②90%以上を目指し、目標値に近づけることができた。 ○授業研究と協議会を通して、主体的・対話的な学習方法が向上した。今後はさらに深い学びへと繋げていく。 ◆「めあて」や学習内容等、授業の質を上げる必要がある。また、ICT機器等の活用を推進することにより、運動が苦手な生徒にも対応する授業を展開する。 ◆今後も継続した取組により、自己評価が向上し、更に体力向上に繋がるように継続して取り組む。
関心 する 育 取 組 に	<b>【授業力・学級経営力向上①(道徳等)】</b> ◇<質問紙55>「人の役に立つ人間になりたい」について、肯定的な回答[90%以上] ◇<質問紙9>「将来の夢や目標をもつ」について、肯定的な回答[80%以上] ◇<生徒自己評価>「道徳の授業が楽しみ」について肯定的な回答[80%以上]	<b>【授業力・学級経営力向上①(道徳等)】</b> ○年間の道徳指導計画については、発達の段階に応じ、道徳的な課題を一人一人が自分自身の課題と捉え、向き合う「考える道徳」議論する道徳」につながる計画案を作成する。 ○道徳の教科化に向けての研修を強化する。 ○農村民泊体験学習や進路学習を通して将来の夢や目標について意識させる。 ○進路学習については、学年に応じた進路講演会を行い、1年次から進路について学ぶ機会を設定する。	B	<b>【授業力・学級経営力向上①(道徳等)】</b> ○<質問紙55>「人の役に立つ人間になりたい」について、肯定的な回答(90%以上)の目標を達成することができた。 ○<質問紙10>「将来の夢や目標をもつ」については、昨年より、向上させることができたが、目標に到達することができなかったため、今年度の取組を検証し、さらに継続して取り組みたい。 ◆道徳の教科化に向けて、今年度取り組んできた授業研究と研修内容を振り返り、次年度の道徳計画実践につなげていく。更に道徳の指導力向上を目指した校内研修を更に充実する。 ◆進路講演会や生き方講演会の実施など、進路学習に関する取組を強化する。
	<b>【授業力・学級経営力向上②(特別活動等)】</b> ◇<質問紙6>「自分には、よいところがあると思いませんか」について、肯定的な回答 [80%以上] ◇<質問紙39>「学級みんなで何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」について、肯定的な回答 [90%以上]	<b>【授業力・学級経営力向上②(特別活動等)】</b> ○生徒一人一人に学級での役割をもたせたり、学校、学年行事に向けて自主的に学級一丸となって取り組める体制をつくる。 ○自主学習ノート(イチコレノート)を活用し、担任が必ず目を通すことで、生徒の心の声を聴き、生徒との信頼関係を大切にして、時宜に応じた指導に当たる。 ○「北九州市子どもつながりプログラム」を活用し、生徒間の信頼関係を深める。 ○「曾根中ABCDイズム～A当たり前のことをBばかにしないで、CちゃんとDできる人が伸びる人～」を徹底して指導する。		<b>【授業力・学級経営力向上②(特別活動等)】</b> ○<質問紙6>「自分には、よいところがあると思いませんか」について、肯定的な回答[80%以上]・<質問紙39>「学級みんなで何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」について、肯定的な回答[90%以上]を目標に、学校・学年行事、特別活動や総合的な学習の時間に、みんなで協力して誰もが責任ある役割を果たすことで、自尊感情を高めることができ、ほぼ目標に達することができた。 ○学級の中や学校・学年行事、特別活動や総合的な学習の時間に、誰もが責任ある役割を果たすことで自尊感情をある程度高めることができ、「人の役に立つ人間になりたい」という項目に対して、ほぼ目標に到達することができた。 ◆「自分には良いところがあると思う。」など、自尊感情についての数値が高くなるよう、自分自身の良さが認識できるような指導・支援を強化する。 ◆「北九州市子どもつながりプログラム」の計画的な活用が教育効果となって表れるように、次年度は年間計画の中に効果的に位置付け取り組みを図る。
健康 の 安 心 組 ・ 安 全	◇いじめ(の芽)の未然防止、早期発見・解決を目指す。 ◇組織的・機動的な生徒指導体制を確立し、いじめ(の芽)事案の早期発見と速やかな対応を図る。 ◇特別支援学級の生徒だけでなく、通常学級に在籍する特別な支援を要する生徒の実態把握と生徒理解に努め、指導・支援のための校内体制を構築するとともに、関係機関と適切に連携しながら特別支援教育を推進する。	○全校で「いじめアンケート」を毎学期実施する。 ○学級担任との教育相談の機会を設け、必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を図りながら組織的に対応する。 ○特別支援教育に対する理解が深まるように、生徒一人一人の情報を共有のための校内研修会を行う。 ○特別な支援が必要な生徒や保護者との話し合いを行い、適切な関係機関と連携・支援ができるようにする。 ○年度当初に家庭訪問を実施する。	B	○「いじめアンケート」が計画的に実施できた。また、教育相談や必要に応じた面談を行うことで、生徒理解に努めることができた。 ○学級担任だけでなく、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、養護教諭、学校支援講師などと連携を図ることで、不登校生徒への対応が充実した。 ○関係機関との連携を推進し、特別な支援を必要とする生徒に対する支援体制を整えることができたため、生徒が落ち着いて過ごし、学習することができた。 ○家庭訪問を実施したことで、生徒への配慮すべきことや家庭での状況を把握することができた。 ◆不登校生徒への未然防止については、更に関係機関や保護者との連携を深めていく。 ◆生徒のニーズに応じて、より良い支援の在り方や専門機関との連携ができるよう検討していく。 ◆スクールカウンセラーの来校日が限られているため、相談日の設定が難しい場合がある。相談体制の再検討を行う。
づ 開 か り れ の た 取 学 組 校	○「あいさつと笑顔あふれる曾根中学校区」が達成できるように、日々の継続的な声かけを行う。 ○保護者や地域と情報を共有し、連携を推進する。 ○学校評議員(学校関係者委員会)との連携を強化する。 ○学校評議員と熟議する機会を設定する。	○小学校と連携し、生徒会と児童会が中心となって、毎月0が付く日にあいさつ運動に取り組む。 ○スクールヘルパー(見守り隊等)の方に方々に協力を要請し、登下校時の生徒にあいさつや声かけをしていただく。 ○学年・学校通信や学校ホームページを通して情報発信を行う。 ○学校ホームページを毎月更新する。 ○授業参観や保護者懇談会、学校開放週間等を通して、情報発信を行う。	B	○学年・学校通信の発行、ホームページの更新を定期的に行うことができた。 ○学校開放週間には、文化発表会へ多くの保護者や地域の方の参観があり、学校の活動を見ながら理解していただく機会となった。 ○中学校区でのあいさつ運動など、三校合同の取組が推進できた。 ○学校評議員会を2回開き、意見をいただくことで学校経営に生かすことができた。 ◆あいさつ運動がなくても、生徒が自覚し、自ら元気のいいあいさつができるように引き続き指導を行う。 ◆三校合同での実務者担当会議(教頭、教務)の充実を図る。 ◆コミュニティスクールへの移行をスムーズに行う。